

教育目標		夢や目標をもち「生きる力」を育む心豊かな生徒の育成						
重点目標		東中しぐさ(心)の確立 → 和文化と心の融合			「みそあじ」の徹底			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校運営協議会	
基礎・基本の徹底 確かな学力の向上	①基礎的、基本的な知識・技能を習得する ②定期テストの結果を分析し、効果的な学力向上策の実施する	①各教科で小テストを行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②弱点項目(30%以下)について、質問しやすい声掛けや環境づくりをする。	①小テストなどの評価で適切に評価されているという回答が80%以上になる。 ②弱点項目の内容などに対する質問がしやすいという回答が80%以上になる。	C	関連するアンケート項目において、「学習の成果を適切に評価されている」という回答は、生徒・保護者ともに80%以上と昨年とほぼ同じであり肯定的な意見となっている。「先生に質問しやすい」という項目は、目標に達成できていない。何を質問しているのかわからない生徒も見受けられるので、自己分析をし、どこができていないのかを明確していく。	基礎・基本の徹底を行うために、引き続き声かけなどを行い、丁寧に生徒に接していく。また、問題等でできていないところを授業やテスト返却の際に、より意識して明確に示していく。また、質問に答える時間を確保するため、授業計画など早めに立て、対応できるようにする。	授業改善が最も大きな課題と考えられる。「学びに向かう力」を育成していく必要がある。授業においてはアクティブラーニング、個別指導、発問等の工夫、ノート指導等を実践していきたい。生徒の心によりよい計画的な学習指導を行っていくことが大切である。	
	①家庭学習を充実させる ②朝読書を通して読書活動を充実させる	①1日2時間の家庭学習を達成させる ②全員が集中して10分間の朝読書を行うよう指導する。	①「家庭学習のための宿題が適切に出されている」という回答が、保護者、生徒ともに80%以上になる。 ②図書館の利用者が前年度より10%上回るようにする。	B	「家庭学習のための宿題が適切に出されている」という回答について、生徒は肯定的な意見は前年度に比べ、やや減少し、保護者は前年よりもやや増加している。前年の保護者、生徒ともに80%以上になるという目標は達成することができなかった。この結果について生徒は宿題を「やらされている」という意識が強い。読書活動の推進について生徒・保護者は前年とあまり変化していない。図書館司書やライブラリーサポートと連携した取り組みが一定の成果を出している。一方で、教職員は朝読しにしっかり朝読をしっかりとできていない、と感じている教師が少なくない。	①生徒にその宿題の「ねらい」と「どのような力が着く」のかを明確に見通しを立たせることで、生徒の宿題に対する意識を高める。 ②学年クラスによって朝読の取り組みにばらつきがあるようなので、GU月間の結果を活用して朝読にしっかりと取り組ませる。	学力向上は生徒の財産となる。家庭学習を定着させるための平日課題・休日課題等の工夫・改善を行い、さらなる家庭との連携に努めて欲しい。「しごと東中」は今後も継続して改善を重ねながら、よりわかりやすい冊子づくりに努めて欲しい。学校のナビゲーションとして、配付するだけではなく、配付・説明が必要である。生徒会図書委員会及びライブラリーサポートとの連携を図りながら、学校図書館利用率・貸し出し冊数等の増加を図り読書に親しむ態度を継続して育成していく必要がある。	
	①ICT機器を活用した授業改善を行う ②授業における課題発表やスピーチの積極的な取り組み	①電子黒板や実物投影機等を活用した授業改善に努める。 ②各教科において1分間スピーチなど、生徒の発言の場を設定する。	①全教職員がICT機器を活用できるようにする。 ②生徒アンケートの回答において、「先生は教え方にいろいろ工夫している」、「授業はわかりやすく楽しい」の割合が85%になる。 ③定期テストで記述問題を含むテストを作成し生徒の考えを引き出す工夫に努める。	C	生徒・保護者のアンケート結果では「教え方の工夫」や「授業のわかりやすさ」に関する回答結果は肯定的意見の割合が高くなり、プロジェクトが各教室に配置され、授業でのICT機器の活用が、生徒たちの授業のわかりやすさにつながったと思われる。一方、教職員アンケートではICT機器の使用は低下しており、研修等を重ね使用率を上げていく必要がある。また、言語活動の充実に向けての授業の工夫を図っていくことが大切である。	①各教科でICT機器を活用した授業づくりの工夫や改善の研修をする。 ②平時より、教科外の授業公開にも参加し、ともに高め合える授業研究を継続していく。 ③言語活動を充実させるためにグループ活動や協同学習を進める研修をしていく。タブレット等を使った発表の機会を増やしていくことも必要であると思われる。	ICT機器を活用した授業がほぼ定着し、「わかる授業」を目指しているが、今後さらなる工夫が必要となる。アクティブラーニング等の活用や毎時間あてを提示し、生徒につけたい力を明確化にしていく授業展開を行って欲しい。ICT教育の充実を図るためには、教職員の研修が必要不可欠であり、教師自らが積極的に研修を積み、意識改善を図る必要がある。	
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	不登校生徒を出さないための、伊丹市共通実践事項を実施する。学年の生徒指導の分掌の中で問題行動と不登校対応を分けることで教職員の負担を軽減する。	①不登校生徒数が前年比90%以下を目指す。 ②生徒アンケートの「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている。」と回答する生徒が80%以上になる。	B	関係機関との連携や個に応じた対応を行った結果、長期欠席生徒数がかなり減少した。欠席日数が減少した生徒も増えた。今後も家庭連絡を密にし、家庭との連携して前向きに対応していく。	引き続き積極的に家庭訪問を行い、生徒、保護者との関係づくりをする。放課後登校や別室登校など個に応じた対応を心がける。また、関係機関との連携を密にし欠席数を減少させる対策を講じる。	不登校になる要因は年々複雑化しており、個に応じた対応がさらに求められる。週1回行われている教育相談会等を活用して、情報の共有化と家庭背景を視野にいたった家庭との連携強化が大切である。関係機関との連携を今後もさらに図り、不登校撲滅に向けて地域・保護者・学校の三者が一体となり取り組んで欲しい。	
	問題行動への対応	問題行動を起こさせない指導体制を確立する	「みそあじ」を徹底し、問題行動を未然に防ぐ。	B	生徒・保護者アンケートの「ルールやマナーを教えてもらっている」の項目では、肯定的な意見が90%を上回っているが、教職員アンケートの「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。」の項目で、肯定的な回答が70%を下回っていた。また、「みそあじ」の徹底ができていなかったため対策をしていく。	「みそあじ」を徹底するために、各学級で啓発する機会を増やす。また、生徒会を中心とした取り組みを計画していく。組織的な対応をするための考え方などを若手教職員に伝達していく。	全体的に落ち着いた状況ではあるが、問題行動対応は組織的な対応が必要不可欠であり、組織体制の見直しを図る必要がある。また、今後も保護者・生徒との信頼関係の構築に力を入れて欲しい。若手教職員の育成は緊急の教育課題であり、校内での研修体制の見直しを行っていくことが大切である。重点目標である「みそあじ」の徹底及び周知を図り問題行動の未然防止に努めて欲しい。	
	道徳教育の推進	豊かな心を育てる道徳教育の充実をはかる	ローテーション授業を行い、担任だけでなく全教職員の実践力の向上をはかる。	各学年ごとに、年1回の公開授業を行う。	B	毎週の道徳の授業では、担任がそれぞれ工夫をして実践することができた。今後継続して力を入れていく必要がある。担当者を定期的に持ち共通理解を図ることで、ローテーション授業が学年の枠にとらわれず学校全体で取り組めるようにする。	ローテーション授業においては、資料や指導案を検討する時間を確保するなど、さらなる改善を行い、内容の充実を図る。	道徳教育の教科化に向けた研修体制を確立していく必要がある。ローテーション授業の充実を図り授業力向上を目指し、いじめ防止に係る「心の教育」の充実を図っていくことが大切である。
	健やかな体づくりの推進	①健康管理の啓発を行う ②健全な食習慣の推進をはかる	①欠席調査を毎朝行い、感染症の拡大防止に努める。 ②保健だよりを通して、健康管理や健全な食習慣の啓発に努める。	①集団感染0を達成する。 ②保健だよりを月1回以上発行する。	B	②は目標を達成することができた。保健だよりはホームページに掲載し啓発した。①については、保健委員会による「風邪調査」やグランドアップ週間を活用し「手洗い」「うがい」「ハンカチ持参」の啓発など取り組んだ。学校保健委員会では「感染症予防について」取り組む予定にしている。しかし、感染症完全予防に至るには難しかった。基本的な予防への意識は高まっているが、実行することに繋がっていない生徒がいる。引き続き啓発の充実を図る。	引き続き、授業や保健だより、保健委員会と連携を図り、「感染症予防」や「健全な生活習慣について」の啓発について取り組む。給食実施に向け、まず教職員の食育に関する意識を高め、生徒や保護者、地域と連携を取りすすめていく。市内の栄養教諭などと連携を図り、取り組みや食育の情報発信を充実させる。	中学校給食完全実施に向けて校内整備体制を確立し、共通理解を図っていく必要がある。生徒会活動の活性化を図り、食育指導の必要、体力向上に向けて取り組み自らの健康は自らで守る意識を高めて欲しい。
	開かれ信頼される学校園	積極的に学校情報を地域、保護者、生徒に発信する	①学校だよりを年間20部以上発行し、学校掲示板に掲載する。 ②学校ホームページを月3回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。 ③「しごと！東中」を有効的に活用する。 ④保護者メール配信を積極的に行う。	①学校だよりを年間20部以上発行する。 ②学校のホームページを月3回以上更新する。 ③保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページ等を通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」の回答が90%以上になる。	B	ホームページは頻繁に更新を行っており、メール配信も学校行事の案内に活用するなど、積極的な情報発信に努めている。保護者アンケートでは、「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページを通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている。」の回答は90%の目標に対し86%であり、ほぼ達成できたと言える。また、学校だよりも年間20部以上の発行ができそうである。2年生の学年通信はトライやる・ウィーク時に好評であった。	学校だよりや学年通信を保護者に渡していない生徒も少なくないと思われるので、学校だよりの発行時にメール配信をする。そのメールに、その月に発行された学年通信の大見出しも入れることで保護者が生徒から通信をもらう確率が上がるようにする。さらに職員にもホームページ更新時には、周知をしていくべきである。そうすれば生徒にも更新内容を知らせることができている。	今後も学校ホームページの改善・改良を重ね、より見やすい・わかりやすいホームページの作成に努めて欲しい。保護者・地域に学校の理解を深めていくためには、今後も積極的な情報発信を行っていく必要がある。生徒に、東中だより・学年通信・学級通信等を保護者に確実に渡す声かけなどを行っていくのもひとつの方法である。
各学校園で特に取り組みたい課題	学校運営への市民参画の推進	東中ファミリーサポーターズ・PTAとの連携強化をはかる	「サタスタ東」や「図書活動」「スマイル活動」などへの協力をPTA・地域に呼びかける。	A	①「サタスタ東」への生徒登録者が150人を超えている。 ②ボランティアスタッフの登録者が70名を超えている。 ③保護者アンケートで「学校はサタスタ東や図書活動などの取り組みを通して、地域や保護者との連携のもと積極的な教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。	サタスタ東の生徒登録者数は、150人という目標にもう少しで達成というところだった。クラス数に変化がなければ引き続き現在の目標数値を設定しておきたい。ボランティアスタッフの登録数は、昨年同様に多い。③のアンケート結果については肯定的な回答が90%以上あり、達成目標数値を超えている。	コミュニティ・スクール導入に伴い、東中ファミリーサポーターズとの連携をさらに強化していく必要がある。東中ファミリーサポーターズの各サポートと協力し学校活性化に向けて今後も取り組んで欲しい。今後も保護者・地域をどんどん学校に巻き込み、共に学校運営に参画していく意識を向上していくことが大切である。	
	安心な学校づくり	避難訓練を徹底し、安全教育の取り組みを行う	学期に1回避難訓練及び安全教育を行う。	B	②は目標を達成することができた。保健だよりはホームページに掲載し啓発した。④については、保健委員会による「風邪調査」やグランドアップ週間を利用して「手洗い」「うがい」「ハンカチ持参」の啓発など取り組んだ。学校保健委員会では「感染症予防について」取り組む予定にしている。しかし、感染症完全予防に至るには難しかった。基本的な予防への意識は高まっているが、実行することに繋がっていない生徒がいる。引き続き啓発の充実を図る。	学期に1回の避難訓練は引き続き行い、安全教育を行うとともに、「しごと東中」を用いて緊急時の対応について生徒に示す機会を設定する。	教職員の危機意識の向上を図り、安全・安心な学校づくりに努めていく欲しい。	
	キャリア教育の推進	①3年間を見通したキャリア教育を推進する ②小中高連携を推進する ③ボランティア活動を実施する	①進路学習ノートを活用した進路指導を行う。 ②小中高合同の行事を行う。2年生で高校訪問を行う。 ③夏休みの清掃活動を呼びかける。	①計画的に進路学習ノートを活用する。 ②小中、中高の十分な交流をはかる。 ③夏休みの清掃活動の参加率が全校生徒の20%以上になる。	B	中高の交流は受検できる学区が広がったことにより、高校の見学をやめた。小中高交流のカルタ大会も中止になった。進路学習ノートは各学年で活用しているが、3年間を見通した指導を十分にしているとは言えない。夏休みの清掃活動の参加率は全校生徒の20%以上であった。	夏休みの清掃活動は部活動生のみ参加であったので、全校生徒にも周知するようにする。3年間を見通した進路計画をたてる。理科や体育は小学校の出席授業を行っているが、他学年でも検討する。	キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」が求められており、①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力の4つの力を授業を通して育成していく必要がある。今後も教職員の資質向上を図りながらキャリア教育の推進に努めて欲しい。
特別支援教育の推進	①個別の指導計画を作成する ②校内委員会を開催する	①教科担当の意見を取り入れ、個別にアセスメントシートを作成する。 ②月1回の開催を原則とし、必要に応じて随時ケース会議を開催する。	個別の指導計画に基づき、「生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた指導に努めている」の肯定的な回答が80%以上となる。	B	個別の指導計画の作成者は、各学級担任(通常学級在籍の場合)であるが、十分に記入や情報の更新ができていない場合がある。また、校内委員会については、今年から週1回の教育支援委員会を時間割に組み込み開催しているが、報告と連絡が主となっており、きめ細やかな支援の検討までは、会議中にはできていない。	個別の指導計画の作成について、適宜作成の呼びかけを行う。また、気になる生徒の情報については、各学年の教職員間で情報を共有し、日頃から取り組める声かけや支援を継続する。	平成28年4月1日に障害者差別解消法が施行され、合理的配慮をふまえた対応が必要となり、教職員の意識、研修体制の確立が大切である。また、個別の指導計画・アセスメントシート等を活用し生徒支援に繋がっていく欲しい。関係機関との連携をさらに図り、今後も教育支援教育、教育支援委員会やケース会議を継続して行い、支援体制の確立を目指していく必要がある。	
子どもたちの一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	①Q-Uを活用したバランスのとれた集団づくりを行う。 ②学級・学年でのリーダー育成を行う ③礼儀と規律ある部活動の推進をはかる	①年2回Q-Uを実施し、学級の現状を把握する。 ②リーダー研修会や専門委員会を定期的に行う。 ③月1回部活動集会を実施する。	①各学年で抽出クラスを決定し、学年全体でQ-U結果向上のための意見交換を行っている。 ②夏期休業にリーダー研修会を実施し、リーダー育成を推進する。月1回専門委員会を行っている。 ③月1回の部活動集会を実施し、各部活動での意識を高める。	A	目標を全て達成することができた。アンケートについては、「先生は生徒の悩みや不安に親身に相談にのってくれる」と、「先生は一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている。」等の項目が、生徒・保護者共に数値が前年度と比べて上昇しており、ひとりひとりに応じた対応ができていないと考えられる。一方で、教師は、「生徒の質問にしっかりと答えている」と「保護者にきめこまやかな連絡をしている」等の項目の数値が減少している。教職員は生徒や保護者に対するアプローチが足りていないと考えていることがわかった。	前年度と比較すると、生徒、保護者の数値は上昇したが、アンケート全体では、「個々に応じた対応」に関する数値は低い傾向にある。また、教師はQ-Uの結果を活用し、より生徒一人一人と向き合う時間を確保する必要がある。保護者対応についても、こまめに学校での様子を伝えたり、家庭訪問をしていく。	Q-Uにおける検証・分析結果を今後も活かし、生徒一人ひとりに向き合う時間を各自が工夫して確保し「心の教育」の推進に努めて欲しい。個に応じたよりきめ細かな指導を心がけ、生徒の心によりそって行っていく必要がある。	
安全で快適な学校園施設の整備	①無言清掃を徹底する ②情報教育機器の整備を拡充する ③教育環境の整備を行う	①各教科で小テストを行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②弱点項目(31%以下)について、質問しやすい声掛けや環境づくりをする。	①「学校が生活の場として、清潔で美しく整っている」の回答が80%以上になる。 ②③「図書館やコンピューター室が使いやすい」と回答している生徒が80%になる。	C	環境美化については、保護者、職員は達成目標の80%を上回っている。生徒は、80%を上回っていた昨年度から評価が下がっており、今年度は80%を下回っていたため、引き続き無言清掃を徹底させるように努める。図書館利用については、6割以上の保護者が「利用しやすい環境である」と評価しているが、実際「よく利用している」と回答している生徒は30%に満たなかった。	美化委員会から掲示物等で環境美化や無言清掃徹底の啓発を行う。図書館利用については、引き続き利用者を増やすよう呼びかけをする。	立腰教育・無言清掃が定着してきたが、校内体制の見直しを図り、さらなる充実が必要である。また、立腰教育・無言清掃を今後も教育活動に生かす学校活性化を図っていくことが大切である。図書館利用については、国語力との関連も考えられ、利用率を向上させる具体的な改善策が必要である。	

学校関係者評価総括 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図り、地域・保護者・生徒に愛される学校づくりを目指していく。  
 次年度に向けた重点的な改善点 不登校生徒へのきめ細やかな対応、さらなる学力・体力の向上、「文武両道」を軸とした生徒の育成を図っていく。